

企業名：アーレスティ

レポート名：会計学入門期末レポート 統合報告（Ahresty Report 2022）分析

1. この会社が目指す姿が理解できるか

アーレスティは、自動車向けのアルミダイカスト製品の製造を主力事業としている企業である。この会社の統合報告によると、アーレスティは現在、近未来の世界における自動車の電動化の流れに即した事業のあり方への変革を打ち出している。

統合報告では、自動車の電動化に伴い自動車部品の軽量化が重要になり、軽量であるアルミニウム素材部品の需要がますます高まってくると言及したうえで、そのような今後に向けてアーレスティはそうした自動車産業の大幅な変化を見越し、電気自動車の部品の製造・販売を主要な事業とする方針を取り始めたと述べている。具体的には、売上高に占める電動車向け部品の割合を 2030 年度までに 55%に上昇させることを目標としている。このような具体的な目標の統合報告を見ることによって、将来のニーズにすばやく、そして真摯に対応していく姿勢が強く理解できる。この事業変革は、「自動車の軽量化に貢献するアーレスティ」という言葉によって強調されている。

また、生産性・品質向上による売上高の増加にも取り組む。各工程においてサイクルタイム短縮、不良低減、稼働率向上、維持管理などを目的に課題を抽出し、これまでの活動データを基に、期待効果の大きな施策から優先的に取り組み、生産性・品質向上を図るという具体的で効果的な指針も発表している。

さらに、すでにおこなっているカーボンニュートラルへの取り組みをさらに強化し、実績も示しながら環境に対する姿勢のアピールをしている。また、各事業の取り組みに対してそれぞれ SDGs の各項目と関連付けるなど環境に寄り添っていることが理解できる。

以上これらの中長期的なビジネスプランは「期待を超える 2040」と名付けられており、この会社が目指す姿を理解しやすくなっている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

リサイクルによるアルミニウム合金を環境負荷軽減・循環型社会への貢献にとって重要な役割を担っていると位置づけ、工場の生産性向上やノウハウ深化によって他社に差をつけることを目標としているが、他社との比較や市場でのシェアなど具体的なデータが示されていないので、アルミニウム合金事業がアーレスティの強みになるかという説得力に欠けるだろう。ただ、リサイクルによるアルミニウム合金製造は環境にやさしいものであるという点では、社会に提供している価値があると言える。

日本国内のフリーアクセスフロア（アルミニウム）市場は好調で、新型コロナを契機としたデジタル化の加速、緩やかな経済回復を受け半導体関連の需要が増大、供給体制強化のためのクリーンルーム新設・拡大などが要因であると分析しており、この状況は今後も堅調と予測している。フリーアクセスフロアのクリーンルームにおいては10年以上にわたり市場シェア第一位であり、東京都庁、東京スカイツリー、横浜ランドマークタワー、関西国際空港などに採用されている。市場シェアの推移グラフが示されておりわかりやすいものとなっていたが、採用されている施設や市場第一位などの情報は記述だけだったので、写真やデータを用いてアピールしたほうが良いと感じる。

また、流通株式時価総額について基準を満たしていないにもかかわらずプライム市場を選択した理由については持続的成長と企業価値向上のためとしており、上場維持基準を満たすということが目標となりさらなる成長への原動力となることが期待される。

この統合報告ではアーレスティの社会における価値が十分理解できるが、他社との比較なども含めるほうがさらにわかりやすいと感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

アーレスティは、会社の持続的成長のためには強みを生かし事業活動を通じて社会課題に対応していくことが重要であると考え、ダイバーシティ・気候変動の緩和・カーボンニュートラル・ワークライフバランスを挙げている。産休や育休制度の充実など女性の活躍をサポートする取り組みや障害者の雇用促進を例に出している。また、前述したとおり各事業にSDGsの項目を関連付けて環境の重視を図っている。さらに、従業員の負担を考慮し健康経営に力を入れ、経済産業省ならびに日本健康会議によって健康経営優良法人2022（大規模法人部門）に選出された。

これらのことはそれぞれの活動ごとに分類されて示されており、非常に理解でき説得力のあるものだと感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

1938年創業のアーレスティは歴史ある会社でありながら自動車の電動化や環境保全など昨今の世界のトレンドにいち早く適応しようとする姿勢がとても評価できる。変化に取り残されることが他社との競争で致命的になることから、将来についても安定して事業を展開できる可能性が高いと言える。

私は、歴史ある会社は保守に走りがちであるイメージを持っていたが、一方アーレスティは時代に即して最先端を走っていると感じた。アーレスティのような歴史を持ちつつそれを踏まえて次世代に適応し最前線を走り続ける会社はとても魅力的であり、その原動力が何であるのか内部に属して観察すれば私自身の成長にも大いにつながると感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

この統合報告では、社の歴史や時代背景を示しつつこれからのアーレスティがどう変革していく計画なのかについて理論立てて紹介されていたことが評価できるが、並列した見出しが多すぎると感じた。各事業や目標に番号を振り間延びしたようなイメージを緩和するか、各見出しについてそれぞれの間のつながりを明らかにしたほうが良いと感じた。

また、現在の取り組みと持続的成長のためにすべきこととの関連をより明らかにし、スムーズにつながりやすくしたほうが良いと感じた。